

第66回西日本生理学会

日 時：平成27年10月9日（金）、10日（土）
場 所：久留米大学筑水会館
当番幹事：久留米大学医学部生理学講座脳・神経機能部門 田中永一郎
久留米大学医学部生理学講座統合自律機能部門 鷹野 誠
参加者：91名
演題数：33題

第66回西日本生理学会は、久留米市旭町の久留米大学において平成27年10月9日、10日の2日間にわたって開催された。33題の演題はすべて口演発表（発表12分、質疑応答3分）とし、活発な討論が行われた。

37歳以下の若手研究者を対象とした「日本生理学会九州奨励賞」には4題の応募があった。5名の審査員による厳正な審査の結果、福岡大学生理学講座 佐藤（沼田）かお理氏の「ニューロン酸感受性外向整流性アニオンチャンネル（ASOR）のアシドーシス性脳神経細胞障害に対する低温救済への関与」と、久留米大学生理学講座の喜久田翔伍氏の「実験的脳虚血による神経細胞死に対するカテプシンL阻害薬の神経保護効果」が選出された。例年に比べて応募数が少ないのが残念であった。若手のさらなる奮起を期待したい。

1日目の学会終了後に懇親会が行われた。筑後地方の地酒（提供：久留米観光コンベンション国際交流協会）の飲み比べなど、楽しい時間を過ごすことができた。2日目は学部学生による発表が3題あり、医学部以外にも西九州大学健康栄養学部の学生による発表も行われた。

評議員会および総会では次回の当番校、鹿児島大学医歯学総合研究科統合分子生理学の桑木共之教授から学会案内があった。次々回当番校については未定である。（鷹野 記）

地方会抄録はウェブページ <http://physiology.jp/magazine/> に掲載させていただくことになりました。（Pt 2） p. 30～p. 40 をご覧ください。